

平成 18 年 4 月 28 日

委員長コメント（2005（平成 17）年エイズ発生動向の概要について）

1 HIV感染者・AIDS患者報告数

1) HIV感染者の報告数

2005（平成 17）年は、日本国籍・外国国籍合わせて 832 件と、過去最高となった（これまでの最高は前年の 780 件）〔図 1 参照〕。

日本国籍男性の増加が引き続き顕著で、本年の報告数は 709 件と初めて 700 件を超え（過去最高）〔図 3 参照〕、HIV感染者報告全体（832 件）の 85.2%を占めている。

2) AIDS患者の報告数

本年は、日本国籍・外国国籍合わせて 367 件で、過去最高となった前年より 18 例減少した（これまでの最高は前年の 385 件）〔図 1 参照〕。

AIDS患者についても、日本国籍男性の増加が認められ、本年の報告数は 291 件と過去最高となった（これまでの最高は前年の 290 件）〔図 10 参照〕。

3) 結果

本年のHIV感染者とエイズ患者の報告は、1,199 件と昨年に続き 1,000 件を超えて増加し過去最高となった。

2 感染経路

本年のHIV感染者報告例の感染経路は、同性間の性的接触が 529 件（全HIV感染者報告数の 63.6%）、異性間の性的接触が 203 件（うち男性 153 件、女性 50 件。全HIV感染者報告数の 24.4%）である。これらの性的接触によるもの合わせて 732 件のうち男性 682 件、女性 50 件となり、男性の割合は 93.2%である。

AIDS患者報告例の感染経路は、性的接触によるものが合わせて 269 件（うち男性 252 件、女性 17 件）で、そのうち、同性間の性的接触が 135 件、異性間の性的接触が 134 件（うち男性 117 件、女性 17 件）であった。

全体の中で日本国籍男性については、HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても、同性間の性的接触が 1999（平成 11）年頃から急増しており、本年はいずれも過去最高の報告数（HIV感染者 514 件、AIDS患者 129 件）となった。

1985 年以降の累積報告数で異性間性的接触による日本国籍HIV感染者を見ると、性別・年齢階級別では、15-24 歳では男性 90 人に対して女性 111 人と、女性の方がむしろ多い〔図 6 参照〕。

3 外国国籍報告

本年のHIV感染者は 91 件（前年 100 件）、AIDS患者は 65 件（前年 76 件）となっており、合計件数についても、感染経路についても、過去 10 年間では年次推移に大き

な変化は見られない〔図 12〕。

4 推定される感染地域及び報告地

推定される感染地域は、H I V感染者の 82.8% (689 件)、A I D S 患者の 69.2% (254 件) が国内感染であった。

報告地は、東京、その他の関東・甲信越ブロックが依然多く、本年報告例ではH I V感染者の 54.8% (456 件)、A I D S 患者の 56.4% (207 件) を占めている。ただし、年次推移をみると、関東・甲信越以外の全てのブロックにおいては、過去最高レベルの報告が続いている〔図 13 参照〕。

5 まとめ

2005 (平成 17) 年におけるH I V感染者とA I D S 患者の報告数は、昨年に引き続き合計が 1,000 件を突破し、過去最高となっているがA I D S 患者は昨年より減少した。H I V感染者は、異性間性的接触によるものが 24.4% を占め、同性間性的接触が 63.6% を占める。

H I V感染者数を男性のみで見ると同性間性的接触がその 68.8% を占めており、その 79.6% が 20-30 代の層である。

したがって、男性の性的接触によるH I V感染を中心として、学校教育の充実も含めた若年層への積極的な予防施策が必要である。

H I V感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方大都市においても報告数の増加傾向がみられ、各地域での対策の展開が望まれる。

なお、2005 (平成 17) 年エイズ発生動向の詳細については、5 月下旬に年報を公表予定である。